



『ごみのこと』を 考えよう

みんなで取り組む

循環型社会とごみ減量

▲伊地山クリーンセンター内のごみ集積ピット。神崎町・香取市・東庄町から出たごみは、一日に約100トンにのぼる。集められたごみは、クレーンで焼却炉に運ばれ燃やされる。

ごみ処理費用に年間約7億円

私たちが生活する中で、必ず発生するごみ。1年間でどのくらいがどのくらいかご存じでしょうか。

神崎町の家庭や事業所から排出されたごみは、伊地山クリーンセンターと長岡不燃物処理場に運ばれます。びん・缶、ペットボトル、プラマーク、鉄類、紙布類など資源になるものは分別され、売却できるものは、専門業者に引き渡されます。資源物を除くごみは、不燃ごみ、可燃ごみとして伊地山クリーンセンターで処理されます。平成28年度、神崎町から排出されたごみは、1933トン。1人1日あたり844グラムとなります。香取市・東庄町を含めたごみの総排出量は、3万5284トンとなり、これらの処理費用は7億983万円。そのほか建設改良費として3億1865万円、合計10億2848万円となりました。

ごみ減量で減らせる経費

可燃ごみの中には、資源物として回収し売却できる品目が混入しています。これらを減らせば、可燃ごみが減り、処理費用を削減することができます。神崎町のリサイクル率は14・2%で、平成27年度の県平均の22・7%と比べて、リサイクル率が低い状況です。

また、可燃ごみを燃やすと、焼却灰が発生します。焼却灰は、伊地山クリーンセンターに隣接した一般廃

棄物最終処分場に埋め立てられています。平成18年に竣工した現在の最終処分場は6槽あり、来年度末で4槽が埋め立てられる見込みです。6槽すべてがいっぱいになれば、新たに広大な敷地やそれを建設するための多額の費用が必要となります。最終処分場の延命化や処理費用削減のためにも、更なるごみの減量が必要です。

地球温暖化を防ぐ

ごみを焼却する際、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が発生します。地球温暖化は、大雨による災害を生じさせたり、動植物の生態系に影響を及ぼしたりするなど、さまざまな変化をもたらすといわれています。温暖化が進行すれば、さらに深刻な問題が発生するかもしれません。

ごみの減量化に努めましょう

家庭でのごみ減量は、特別難しいことをする必要はありません。身近なところでは、食事は残さない、生ごみの水切りをする、資源物を分別するなどの取り組みで減らせます。

出されるごみを見ると、紙・布類・プラマークが多くの割合を占めています。ごみ減量には、これらの削減が効果的です。

ごみの減量は、地球温暖化対策になるだけでなく、ごみ処理施設の管理運営費や処分費の削減につながります。みなさんも「ごみの減量化」始めてみませんか。